



サーフィンと里山

「森は海の恋人」はすっかり定着し、漁民や市民が植林する動きは広がってきた。山と海は川によってつながり、海からの水蒸気が雲となって山に雨を降らせ循環をなす。豊かな海であるためには森からの養分供給が欠かせないことについて国民的理解はすいぶんとすすんだ

▼このところ千葉県房総半島にあるいすみ市とご縁をいただき、機を見て足を運んでいるが、このほど「いすみ地域における森里川海の一体型環境保全活動による里海の維持」を目的とする有識者勉強会が立ち上がった。有識者勉強会とはいつでも中心は地元有志で、専業とともに定年帰農等によるＩターン組を主とした農業者、漁業関係者、行政、市民ボランティア等と問題意識に富んだ多様なメンバーが参画している。里海の維持のためには里山の環境保全がきわめて重要であり、獣害被害や農薬の空中散布への対策も大きな実践的課題としている

▼勉強会に先立って現地を視察して回ったが、車に同乗した主要メンバーの一人、サーフィンショップやサーフィンスクールのオーナーである〇さんが言うには、外房の浜にも泥が混じるようになり、打ち上げられる竹が増えているという。これは山が荒れているのが原因で、大雨があると竹が根っこごと流されてしまいうため、きれいな浜を取り戻すには里山の環境保全が欠かせないと熱く語る。サーフアールによるにぎわいが地域の活力維持に不可欠で、里山と里海の一体的な環境保全活動を必然とすることに納得。時代とともに保全活動の中身も変化することを実感した。

(土着菌)